

2017年5月17日
東ソー株式会社

南陽事業所の運営機能強化計画を始動 ～新研究棟・新本館の建替え～

東ソーは、主要な生産・研究開発拠点である南陽事業所（山口県周南市）の研究棟を新設するとともに、本館の新設を含めた正面エリアのリニューアルなど、事業所の運営機能強化計画を始動します。

本計画では、以下の3点を目的として南陽事業所の運営機能のさらなる強化を目指すものです。

- ①研究棟を新設し、スペシャリティ製品の研究開発機能を強化
 - ②老朽化した本館の新設および正面エリアのリニューアル
 - ③BCP(*)対応機能の強化 *Business Continuity Plan
- 概要につきましては下記のとおりです。

記

1. 主要施設の概要

	新研究棟	新本館
延床面積	約 10,000m ²	約 5,000m ²
構造	地上 4 階	地上 4 階
着工時期	2018 年 8 月	2017 年 6 月
完成時期	2019 年 10 月	2018 年 6 月
投資額	約 110 億円 (その他の研究関連施設・設備管理棟・ 防災センターの建替え等を含む)	

2. 運営機能強化のポイント

(1) 新研究棟

- ①研究開発機能の効率化、技術シナジー強化を促進させるため、4地区に分散している研究所の集約・整備・機能拡充とともに、老朽化した研究開発施設の安全強化も踏まえて研究開発体制を整備する。
- ②南陽地区には、スペシャリティ事業の研究開発拠点として、無機材料研究所および有機材料研究所を設置しているが、いずれの施設も築40年以上経過し耐震老朽化対策が必要であることから、スペシャリティ事業の中長期的な成長に向けた開発基盤整備のため新研究棟を建設する。

③新研究棟建設後は、機能集約が進むことで技術テーマの連携がより一層深まるとともに、ベンチテスト施設やクリーンルームの充実、最新設備の導入などにより、新規用途開発や新規材料開発の促進が図られる。

(2) 新本館・正面エリア

- ①新本館やその周辺施設はいずれも築50年以上経過し老朽化が進んでいることから新本館および周辺施設を新たに建設・整備し、BCP対応機能の強化を図る。
- ②新本館建設により事業所内で分散していた技術センターおよび環境保安・品質保証部門が一箇所に集約され、事業所全体のコントロールタワーとしての運営機能が強化される。
- ③新研究棟や新本館の建設に伴い、事業所正面エリアの施設レイアウトを全面的にリニューアル、利便性の向上を図る。

<完成イメージ図>



<参考：研究所および技術センターの概要>

研究開発拠点（新研究棟完成後）		開発分野
◎スペシャリティ製品の研究開発拠点		
南陽事業所 （山口県周南市） ※2019年10月 に新研究棟完成	有機材料研究所	有機化成品事業の強化、および情報・電子分野、環境関連分野での新規有機機能製品の開発
	無機材料研究所	高機能材料事業の強化、および電子、環境・エネルギー分野での新規無機機能製品の開発
◎石油化学・ポリマー製品の研究開発拠点		
四日市事業所 （三重県四日市市） ※2019年4月 に新研究棟完成	ファンクショナルポリマー研究所	分子構造、機能設計などの技術を融合し、光学・電子・生体機能などを有する新規ポリマー材料の創出
	高分子材料研究所 ※南陽・四日市の2拠点体制を四日市に集約	石油化学・ポリマー事業の強化、および触媒、重合、物性制御、配合・成形加工など高分子分野における基盤技術の構築
	ウレタン研究所 ※2019年8月に神奈川県横浜市から移転（予定）	ウレタン事業の強化、およびウレタン樹脂原料とシステムの開発により新規機能性ウレタン材料の創出
ウレタン研究所 （神奈川県横浜市）	2019年8月に閉鎖（予定）	
◎先端技術創出の拠点		
東京研究センター （神奈川県綾瀬市）	ライフサイエンス研究所	新たな検査技術や医薬精製用分離剤など健康・医療分野の新材料・技術の創出
	アドバンストマテリアル研究所	エレクトロニクスおよびエネルギー関連の先端材料の研究開発
◎生産技術・エンジニアリングの拠点		
南陽事業所 （山口県周南市）	技術センター	既存プロセス改良、合理化、新プロセスの工業化、プラント建設のためのエンジニアリング業務および環境保全技術の支援

以上